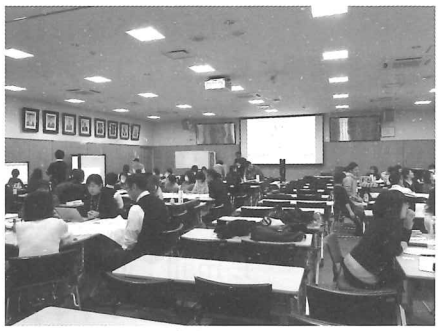
講義と実習を通して知識を深める、という内容はとても魅力的でした。しかし、講義は年10回といえども、週末がまるまるつぶれます。加えて実習は４か所、多い人で６か所が必須で、実習先は自分で探し、自分で交渉しないといけません。学ぶというスタンスは、学生時代のその時とは大きく違い、受け身では成り立たない事を再度認識しました。仕事をしながらの大変さは言うまでもありませんでしたが、だからこそ楽しみも大きな物でした。

講義では、様々なフィールドを持った仲間が、共通の目標を持って集まり、同じ時間を過ごす。誰もがその時間が貴重だと分かっているだけに真剣でした。実習では、実習生の受け入れの大変さが分かるだけに、実習を引き受けてくれたことへの感謝は、学んでやる、何か得てやるという貪欲さにつながりました。

講習会を終え、やり遂げた充実感とすがすがしい達成感。そして、同期の数だけ増えた名刺の束は、これからも学び続ける決意と意欲を証明する、私の貴重な財産となりました。そして今、この講習会を通して得られた、すべての素敵な出会いに感謝しています。

2019年度医療福祉連携講習会に参加して

山口労災病院地域医療連携室 看護師　埴生清美



会場風景

地域医療連携室の看護師として医療と在宅をつなぐ架け橋としてその重要性を日々感じるようになりました。日頃より地域で行われる会議や事例検討に参加し顔の見える関係づくりに参加するものの「医療と地域(福祉)との連携がスムーズに取れない」「連絡がなく退院した」などの意見がゼロにはならず堂々巡りの状態でした。いつしか問題の大きさにスムースな連携の為に何が問題なのか、どうしたらよいのかを考えることに行き詰まりを感じるようになっていました。

問題解決の糸口を見つけるためにも興味のあった医療福祉連携講習会に参加しました。講師の先生方の講義は知っておくべきポイントを楽しく学べるもので多種多様な職種の10期生は活気あふれ、講義の合間の短い時間でもぐいぐいとつながりを求めて話しかけてくれました。時には失敗した話やアドバイスもあり10期生のパワーに私も刺激を受け日頃から気になりながらそのままにしていた当院の課題にも「パワフルに取り組まなければ何も変わっていかない」「変える糸口は私が見つけなければ」というような気持ちになりました。

地域での実習では、病気で体調が変わっても入院で生活の場が変わっても暮らしは続き、関わる関係者がそのことを理解し、その生活がシームレスに継続するように支援していくことが、その人らしい暮らしの実現につながることを学びました。

医療福祉連携講習会の最後に「円滑な医療福祉連携に大切なこと」をテーマに解決策を含めてグループワークを行いました。この半年間にかかわった講師や10期生との関わりもあって自分では見つける事のできなかった考えがあふれ達成感を感じることが出来ました。「同じ目標を目指していくことが最強のone teamになれる」ことだと確信しました。ここでのつながりの種を持ち帰り、多くのone teamができるようにその架け橋になっていきたいと思います。

2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加して

市立ひらかた病院 医事課　山本恵子

会場風景

医師事務作業補助者の存在に対して認知度が上がるにつれ、業務として求められることが増加し、どのように業務にあたるべきか悩んでいた時にこの講習会の事を知り、参加させていただきました。

今年度の講習会は10月26日～27日と、11月30日～12月１日に日本医科大学で行われました。保険制度や一般的な医療知識は勿論、診療録や診断書類の作成についてのみならず、マネージメントやコーチング、メンタルヘルスに関することや、他国での医師事務補助業務の状況など多彩な事柄を学ぶことができました。また、接遇についての講義もあり、自らの接遇を見直す良い機会となりました。そして、グループワークを通して、全国の様々な病医院で業務にあたっている、似たような立場の方々と意見交換をすることができて、とても有意義な時間となりました。

グループワークの発表の際の、医師事務の業務を軽んじてはいけない旨の発言にはハッとさせられました。もし、私たちが医師に代わって記入した処方箋や検査の項目が誤っていれば、患者さんの身体や場合によっては命に関わることもあり得るという事を改めて認識し、気を引き締めなければならないと強く思いました。

今後は、学んだことを自分だけで留めず、自院のスタッフと共有してスキルを上げていくことができるように努めていきたいと考えています。